

災害時医療と救急医療におけるリスクマネジメントと対策
～地震・津波災害、バイオテロおよびトリアージと救急搬送～

ドクターヘリの現状と効果について

小濱啓次 川崎医療福祉大学 教授

ドクターヘリとは、救急患者に対応できる医師が必ず搭乗していること、重症患者に対応できる医療機材が装備されたヘリコプターであること、ヘリコプターは医療機関敷地内に常駐していること、出動要請から少なくとも5分以内に離陸できる体制にあること、の条件を充たすヘリとされている。ドクターヘリは、平成11年からの2年間の試行的事業を経て、平成13年から正式に運航が開始された。現在運航されているのは10ヵ所で、平成16年度には8ヶ所で年間3,487件の出動件数を得ている。ドクターヘリの利点は救命率の向上と予後の改善である。これは重症の患者であればあるほどいかに早く医師が治療を開始するかが患者の予後を決めるからである。ドクターヘリは医師が救急患者発生現場に行くので、それだけ救命率の向上と予後改善が行われることになる。ドクターヘリは重症患者の救命を目的にしているために機内の設備は、人工呼吸器、除細動器、心電図モニター、輸液ポンプ、吸引器等、大病院のICUの設備に近いものを有しており救命に役立っている。

ちなみに平成16年度における搬送件数における重症患者の率は、40%と非常に高い。ドクターヘリの今後は全国の都道府県にいかにして拡げるかであって、このためには関係省庁の協力のもと救急ヘリ特別措置法を作り、全国展開に向けて努力する必要があると考える。